

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-136	15-088	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳） Alcohol and Other Addictive Disorders Following Bariatric Surgery: Prevalence, Risk Factors and Possible Etiologies. 肥満外科手術後のアルコールと他の中毒性の異常：罹患率、危険因子、可能性のある病因		
執筆者 Steffen KJ, Engel SG, Wonderlich JA, Pollert GA, Sondag C.		
掲載誌 Eur Eat Disord Rev. 2015 Nov;23(6):442-50. doi: 10.1002/erv.2399. Review.		
キーワード		PMID
肥満外科手術、術後、アルコール使用障害、ルーワイ胃バイパス術		26449524
要 旨 <p>背景：肥満外科手術は近年肥満患者において著しく持続した体重減少が認められる最も効果的な介入方法である。大部分の患者は肥満関連合併症や健康に関係した生活の質に対して著しい改善を自覚する一方、ごく少数の患者で肥満外科手術による目に見える効果が得られないこともある。アルコール使用障害(Alcohol use disorders:AUDs)の出現に関する文献がここ数年間で増加しており、少数の患者で肥満外科手術の後に新規に発症する例が確実に増加している。</p> <p>方法：アルコール使用障害と肥満外科手術の関連についての文献レビューを行った。</p> <p>結果：ルーワイ胃バイパス法(RYGB)は AUD を発症するリスクと関連を認める一方、腹腔鏡下調整性胃バンディング術はいくつかの大規模な研究で関連性は否定されている。肥満外科手術対象者がAUDsになる説明理論として、患者は手術によって「中毒(食べ物)」から新しい「中毒(アルコール)」に取り替えた、という、「中毒の移動」がこれまで議論されたきた。動物実験からは RYGB 後の神経生理学的にアルコール報酬系の増加が示唆している。加えていくつかの薬物動態学の研究では RYGB 後に急速で劇的なアルコール濃度上昇のピークを報告している。</p> <p>結論：アルコールと他の依存性疾患の有病率や術後 AUDs に対して潜在的に因果関係のある要因についての探求が今後、必要であろう。</p>		